

原発再稼働を止めるため

今こそ声を!!

4月19日は法大生が 立ち上がる日

昼休み、デモに出よう!

官邸囲む怒り



「子ども守れ」1600人デモ

4月14日付東京新聞

法大生のみなさん！ 私たちは今週19日(木)に法大包囲デモを呼びかけます。このデモは、①原発再稼働に絶対反対の意思を示すために、②法大におけるすべての不当処分を撤回させるために、そして③学生が大学と社会を変える主人公となるために、全国学生が法大に集まって行います。

●「はじめに結論ありき」の再稼働決定

4月13日、野田政権は関西電力・大飯原発(福井県)の3・4号機を再稼働させる方針を決定しました。それを受けて、14日には枝野経産相が福井県に出向き、「地元への要請」なるものを行いました。

これに対して、13日には国会周辺で大規模な抗議行動が闘われ(上記事参照)、14日の福井県庁前でも弾劾のデモが枝野を迎え撃ちました。再稼働強行への怒りは日々高まり、全国に拡大して行っています。

そもそも「閣僚会合」「地元要請」などということ自身がアリバイづくりのペテン的なポーズで、最初から「再稼働ありき」の出来レースです。野田政権と電力資本は「国民の命より原子力ムラの利益を優先している」(14日付東京新聞)のであり、あらゆる世論調査でも過半数を超えている「再稼働反対!」の声を踏みにじるものであり、絶対に許せません。

安全対策置き去り

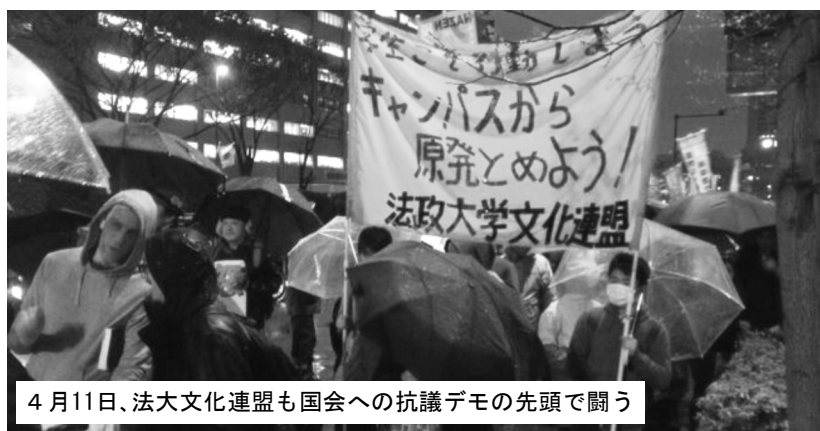


4月14日付東京新聞

大飯原発再稼働をめぐる流れ
2月13日 原子力安全・保安院が安全評価の1次評価を妥当と判断する審議会を提出
3月23日 原子力安全委員会が保安院の判断を了承
4月3日 首相と枝野経産相の3閣僚が協議
13日 首相と3閣僚が再稼働方針を決定
14日 枝野氏が福井県を訪問
福井県などが再稼働に理解? 首相と3閣僚が再稼働を最終判断?

首相・3閣僚会合
4/8
経産相きょう福井へ
野田首相と枝野経産相は閣僚会合で、閣内方針を決定し、4月8日(金)午後、福井県庁を訪れた。枝野氏は、福井県庁で地元関係者との会合を開き、再稼働の是非について意見を述べた。枝野氏は、福井県庁で地元関係者との会合を開き、再稼働の是非について意見を述べた。

大飯再稼働政府方針決定



4月11日、法大文化連盟も国会への抗議デモの先頭で闘う

全学連

全日本学生自治会総連合(斎藤郁真委員長)

TEL 050-3036-6464 <http://www.zengakuren.jp/> mail_cn001@zengakuren.jp

再稼働 拙速な結論

大阪原発の再稼働に必要な手順

2011年

10-11月 関西電力がストレステスト報告書を提出

2月13日 原子力安全・保安院がテストの妥当性確認

3月23日 原子力安全委員会が保安院の審査内容を確認

4月6日 閣僚会合で暫定基準を正式決定

4月9日 閣僚会合で実施計画提出

4月13日 閣僚会合で大阪原発の安全宣言と再稼働の妥当性を判断

4月14日 枝野経産相が福井県訪問。再稼働を要請

福井県原子力安全専門委員会が暫定基準を確認

大阪原発再稼働へ向けての新たな判断要件について食す

枝野経産相は13日午後、福井県庁で記者会見を開き、



野田政権が関西電力大阪原発の再稼働を急ぐと判断する。材料は、急ぎの安全基準に照準を合わせる。ミサイル対応に追われる中で、決断し、再稼働に突き進んだ。

閣僚会合は、再稼働をめぐる関係が、電力供給の受けとれは変更されず、予定通り進められた。会合後、枝野経産相は「非常に厳しい電力供給を消化した。電力の社会的弱者にシフトさせる。供給不足と電力料金の値上げという二つの理由をたて、再稼働に突き進んだ。もともと13日の閣僚会合で、7割の賛成はあった。」

4月14日付朝日新聞

政権、必要



14日、福井県庁前で枝野経産相への抗議行動

しかも「再稼働の理由」たるや、「経済のため」、「電力の安定供給」、「電気料金の値上げ抑制」、とコロコロ変わり、あべくの果てには「国債の暴落回避のため」(前原)、「社会的弱者へのしわ寄せにならぬよう」(枝野←放射能をまき散らして今なお16万人に避難生活を押し付けているお前が言うな!)など、まったくふざけきっています。

要するに、原発事故の責任をとるべき原子カムラの面々(全員犯罪者であり、身ぐるみはいで刑務所にぶち込むべきだ!)が、これからも「命よりもカネ」の世の中を続けるためにウソにウソを重ねて再稼働に突き進んでいるのです。

●再稼働を止める力はどこにあるのか？

しかし、もうこんなやり方は絶対に通用しないし、私たちは未来をかけて再稼働を阻止しなければならないし、それは絶対に出来ます。5月5日には、日本のすべての原発が停止する「原発ゼロ」を迎えます。

再稼働阻止の原動力は、政治家でも大学教授でもありません。昨年3月11日以来、“全部ウソだった”ことへの怒

りを燃やした青年・学生のデモや集会が、原子カムラを追いつめ、全原発の停止・廃炉をかちとろうとしています。デモで社会を変えられる時代、私たち自身の行動が歴史を前進させていく時代が来ています。

●社会のあり方を根本的に変える時

放射能をまき散らした連中が「原発の安全」と「再稼働」を叫ぶ、こんな腐りきったあり方は原発だけではありません。「安全保障」を掲げての沖縄への基地押し付け、「北朝鮮のミサイル」危機を煽っての全土戦争国家化も同じです。さらには、教育とビジネスにして金儲けに走る今の大学の姿。大学も社会も、すべてが逆立ちしてしまっています。

未来を担う私たちは、これまで当たり前のことのように押し付けられてきたこの「常識」をうち破るために、今こそ声をあげる時です。再稼働阻止がその出発点です。

●19日、法大生の団結の力を見せよう！

そして、ここ法大市ヶ谷キャンパスにみんな目を向けてほしい。原発が爆発し、数百万数千万の人々の生活に影響を与え、そして多くの青年・学生がデモに立ち上がっているこの歴史の転換期に、なぜ大学は声をあげないのか。声をあげないどころか、なぜ「当たり前」のように、原発事故など「関係ない」かのように授業が行われているのか。

大学・教育はこれでいいのでしょうか。私たち学生の存在とは、就職活動に追いまくられ、高い学費を稼ぐためにバイトに必死になり、単位や授業にがんじがらめになってしまう、それほど小さいものなのでしょうか。もしくは、「原発反対の署名をするな」とか「危険サークルに入るな」とか「学外者と話すな」など、大学当局による連日の洪水のような宣伝。これこそ、私たち学生の主体性を否定し、政治性や討論の可能性を奪っているのではないのでしょうか。

法大では闘う法大生に対して常に処分がかけられ、キャンパスの外に追い出されてきました。しかし、この処分を全法大生の力で撤回させることで、大学のあり方を変えることは出来ます。それが再稼働を止める力です。私たちはこの社会変革の主体であり、キャンパスの主人公です。4月19日、全国の仲間とともにそれを示そう!!

「原発再稼働阻止! 不当処分を撤回する!」法大包围デモ

4月19日(木) 正午 法政大学市ヶ谷キャンパス正門前集合

※総長室のある九段校舎に向かってデモ<13時デモ出発-13時半に正門前でデモ終了予定>

文部科学省に対する申し入れ-包围行動

4月19日(木) 15時 経済産業省前テント集合

※文部科学省内で、「20^{世紀}シーベルト基準」撤回を求める申し入れ書を提出します。

※行動終了後の18~20時に屋内会場で総括集会を行います。

【呼びかけ】4・19法大-文部科学省行動実行委員会

